

京大 広報

KYOTO UNIVERSITY



※ P6128 参照



※ P6140 参照



※ P6146 参照



※ P6148 参照

2025.5
No. 780

目次

[大学の動き]

- 柏原正樹 数理解析研究所特任教授、高等研究院
特定教授がアーベル賞を受賞 6128
- 副学長が発令される 6129
- 副理事が発令される 6130
- 理事補が発令される 6131
- 部局長の交替等 6131
- 名誉教授称号授与式を举行 6134
- 永年勤続功労表彰式を举行 6135
- 第17回京都大学たちばな賞(優秀女性研究者賞)
表彰式を举行 6136
- KuSuKu アカデミックプログラム「能囃子体験 つづみ
を打とう!」、「きょうげんであそぼ!」を実施 6138
- 令和6年度「総長賞表彰式」を举行 6139
- 令和6年度大学院学位授与式を举行 6140
- 令和6年度卒業式を举行 6145
- 令和7年度学部入学式を举行 6146
- 令和7年度大学院入学式を举行 6148
- 「京都大学ポスターセッション2024」を実施 6150
- 「Science Japan meeting 2025—産官学連携に
よる日本の科学力強化—」および Science 編
集長と本学若手研究者との座談会を実施 6152
- Kyoto University SPIRIT2 Award 2025 の受賞
者が決定 6155
- 第11回京都大学—稲盛財団合同京都賞シンポジウム
を開催 6155
- 寄付型飲料自動販売機を設置 6157
- 京都府、京都市と包括連携協定を締結 6157

[部局の動き]

- 第1回大津事業場ヘルスケア講習会を開催 6159
- 京都大学研究資源アーカイブが『「近畿地方の民俗学
的調査」映像資料, 1933-1936』と『「近畿地方ヲ中心
トスル民俗調査」録音資料, 1940-1943」を公開 6159
- 第9回森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」
を開催 6161
- 海外の大学間学生交流協定締結校への短期派遣
プログラムを実施(チューラーロンコーン大学・
インドネシア大学・ウィーン大学) 6163
- 第20回京都大学附置研究所・センターシンポジ
ウム/京都大学鹿児島講演会を開催 6165

[寸言]

- 山形発「おもしろい、ええ会社」を目指して 森 安弘 6167

[随想]

- 「パラダイム転換」を見すえて
名誉教授 溝端 佐登史 6168

[洛書]

- 学生街の喫茶店 井田 大地 6169

[榮譽]

- 柴田 大 基礎物理学研究所教授が紫綬褒章を受章 6170
- 木本恒暢 工学研究科教授が紫綬褒章を受章 6170
- 森本幸裕 名誉教授が「みどりの学術賞」を受賞 6171
- 益田玲爾 フィールド科学教育研究センター教授が、
2025年度日本農学賞および読売農学賞を受賞 6172

[訃報]

- 吉田 郷弘 名誉教授 6173
- 東 邦夫 名誉教授 6174



京都大学

所属・職名については、行事開催時点のものです。

大学の
動き

柏原正樹 数理解析研究所特任教授、高等研究院特定教授 がアーベル賞を受賞

柏原正樹 数理解析研究所特任教授、高等研究院特定教授の2025年アーベル賞受賞が決定しました。

本学は、受賞の発表を受けて、3月27日（木）に、北川 進 理事・副学長、大木谷 耕司 数理解析研究所長、森 重文 高等研究院長、ヘルゲ・ホルデン アーベル賞委員会委員長（オンライン参加）の同席のもと、柏原特任教授の受賞記者会見を行いました。

会見では、最初に、北川理事・副学長からアーベル賞や柏原特任教授の功績について説明があり、続いて、柏原特任教授が受賞の感想を述べました。

また、会見の前には、あべ俊子 文部科学大臣から、「今回の受賞は日本人としては初めてで快挙であり、大変誇りに思う。世界に挑戦する次世代の研究者の大きな励みになる」というお祝いの電話がありました。



記者会見で受賞の感想を述べる柏原特任教授

湊 長博 総長のコメント

このたび、柏原正樹先生の研究が世界的に評価され、ノルウェー科学文学アカデミーから2025年アーベル賞を受賞されましたことに、京都大学を代表してお祝いを申し上げます。

この賞は、ノルウェー出身の数学者ニルス・ヘンリック・アーベルにちなみ、傑出した業績をあげた数学者に対して贈られる賞であり、フィールズ賞と並んで数学のノーベル賞とも称されています。長きにわたり、信じる道を貫き、新たな学術の扉を開いてこられた柏原先生の業績が、今回の受賞に結実したことを、私も京都大学の一員として誇りに感じるとともに、本学のみならず、日本中の学生や若手研究者にとっても大いに励みになるものと確信しております。

柏原先生の素晴らしい栄誉に心よりお慶び申し上げます。



記者会見の様子



あべ大臣より電話を受ける柏原特任教授

大学
の
動き

柏原正樹 特任教授のコメント

2025年アーベル賞を受賞することになり、大変うれしく思っております。この受賞は、50年を超える研究全体が高く評価されたものであり、望外の喜びです。

私は、21歳の時に代数解析学の創始者である佐藤幹夫先生に出会い、多くのことを学びました。その中でも、数学において、新しい物事を創造することがいかに重要であるか教えていただいたことが最も大きな糧となりました。

これまで大変多くの共同研究者に恵まれたことが私の数学研究を豊かにしてきました。この場を借りて、共同研究者の方々に感謝の意を表します。また、京都大学数理解析研究所で研究に専念できる環境を得たこともこの受賞につながったものと確信しています。このような研究環境を提供し続けていただいた京都大学に深く感謝します。

【関連リンク】

The Abel Prize

<https://abelprize.no/>

柏原 正樹 | 京都大学数理解析研究所 – RIMS, Kyoto University

<https://www.kurims.kyoto-u.ac.jp/ja/list/kashiwara.html>

京大数理解析研究基金

<https://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/mathematical/>

プロフィール：柏原正樹 | KUIAS 京都大学高等研究院

<https://kuias.kyoto-u.ac.jp/j/profile/kashiwara>

高等研究院 FOREST 基金 | KUIAS 京都大学高等研究院

<https://kuias.kyoto-u.ac.jp/j/fund/forest/>

(数理解析研究所、高等研究院)

[目次に戻る ↗](#)

副学長が発令される

4月1日付けで副学長が任命されました。任期は【 】のとおり。



国際高等教育院担当
大嶋 正裕 (再任)

【令和8年9月30日まで】



国際戦略担当
河野 泰之 (再任)

【令和8年9月30日まで】



法務・コンプライアンス担当
塩見 淳 (新任)

【令和8年3月31日まで】

大学の
動き



評価、研究拠点担当
時任 宣博（再任）
【令和8年9月30日まで】



安全衛生担当
米田 稔（再任）
【令和8年9月30日まで】

[目次に戻る ↗](#)

副理事が発令される

4月1日付けで副理事が任命されました。任期は【 】のとおり。



桂キャンパス担当
立川 康人（再任）
【令和8年3月31日まで】



宇治・遠隔地キャンパス担当
片平 正人（新任）
【令和8年3月31日まで】



社会連携・イノベーション
推進担当
室田 浩司（再任）
【令和8年3月31日まで】



総務・調整、事務改革担当
横山 陽一（新任）
【令和8年3月31日まで】



財務・調整担当
田上 雄一郎（新任）
【令和8年3月31日まで】

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

理事補が発令される

補佐する理事	氏 名	任 期	
渉外担当理事	柴 田 悠	令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 9 月 30 日	(新任)
研究推進担当理事	田 中 功	令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 9 月 30 日	(再任)
広報担当理事	西 山 伸	令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日	(新任)

[目次に戻る ↗](#)

部局長の交替等

【新任】

法学研究科長・法学部長

笠井正俊 法学系（大学院法学研究科）教授が、唐渡晃弘 法学研究科長・法学部長の後任として選出されました。任期は令和 7 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで。



理学研究科長・理学部長

佐々真一 物理・宇宙物理学系（大学院理学研究科）教授が、田中耕一郎 理学研究科長・理学部長の後任として選出されました。任期は令和 7 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで。



人間・環境学研究科長・総合人間学部長

宮下英明 人間・環境学系（大学院人間・環境学研究科）教授が、浅野耕太 人間・環境学研究科長・総合人間学部長の後任として選出されました。任期は令和 7 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで。



人文科学研究所長

森本淳生 人文学系（人文科学研究所）教授が、岩城卓二 人文科学研究所長の後任として選出されました。任期は令和 7 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで。

大学の
動き

基礎物理学研究所長

早川尚男 基礎物理学系（基礎物理学研究所）教授が、青木慎也 基礎物理学研究所長の後任として選出されました。任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日まで。



生態学研究センター長

木庭啓介 生態フィールド学系（生態学研究センター）教授が、中野伸一 生態学研究センター長の後任として選出されました。任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日まで。



野生動物研究センター長

平田 聡 生態フィールド学系（野生動物研究センター）教授が、伊谷原一 野生動物研究センター長の後任として選出されました。任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日まで。



総合博物館長

高井正成 全学教員部（総合博物館）教授が、永益英敏 総合博物館長の後任として選出されました。任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日まで。



教育改革戦略本部長

國府寛司 理事が、教育改革戦略本部長に選出されました。任期は令和7年4月1日から令和8年9月30日まで。



研究連携基盤長

中野伸一 生態フィールド学系（生態学研究センター）教授が、辻井敬亘 研究連携基盤長の後任として選出されました。任期は令和7年4月1日から令和8年9月30日まで。



大学
の
動き

【再任】

教育学研究科長・教育学部長

齊藤 智 教育学系（大学院教育学研究科）教授が、教育学研究科長・教育学部長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和8年3月31日まで。

工学研究科長・工学部長

立川康人 地球工学系（大学院工学研究科）教授が、工学研究科長・工学部長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和8年3月31日まで。

エネルギー科学研究科長

馬淵 守 エネルギー科学系（大学院エネルギー科学研究科）教授が、エネルギー科学研究科長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日まで。

情報学研究科長

五十嵐 淳 情報学系（大学院情報学研究科）教授が、情報学研究科長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和8年3月31日まで。

生命科学研究科長

井垣達吏 生命科学系（大学院生命科学研究科）教授が、生命科学研究科長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日まで。

総合生存学館長

村上 章 大学院教育支援機構特定教授が、総合生存学館長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和8年3月31日まで。

エネルギー理工学研究所長

片平正人 エネルギー理工学系（エネルギー理工学研究所）教授が、エネルギー理工学研究所長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日まで。

複合原子力科学研究所長

黒崎 健 複合原子力科学系（複合原子力科学研究所附属安全原子力システム研究センター）教授が、複合原子力科学研究所長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日まで。

フィールド科学教育研究センター長

舘野隆之輔 生態フィールド学系（フィールド科学教育研究センター）教授が、フィールド科学教育研究センター長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日まで。

福井謙一記念研究センター長

佐藤 徹 工業化学系（福井謙一記念研究センター）教授が、福井謙一記念研究センター長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日まで。

大学の
動き

国際高等教育院長

大嶋正裕 国際高等教育院特定教授が、国際高等教育院長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和8年9月30日まで。

大学院教育支援機構長

平島崇男 大学院教育支援機構特定教授が、大学院教育支援機構長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和8年3月31日まで。

環境安全保健機構長

米田 稔 環境安全保健機構特定職員が、環境安全保健機構長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和8年9月30日まで。

国際戦略本部長

河野泰之 国際戦略本部特定教授が、国際戦略本部長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和8年9月30日まで。

高等研究院長

森 重文 高等研究院特別教授が、高等研究院長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和9年3月31日まで。

学際融合教育研究推進センター長

時任宣博 学際融合教育研究推進センター特定教授が、学際融合教育研究推進センター長に再任されました。任期は令和7年4月1日から令和8年9月30日まで。

[目次に戻る ↗](#)

名誉教授称号授与式を挙行

2025年4月4日（金）午後4時から、百周年時計台記念館において、総長、理事、副理事、副学長の出席のもとに名誉教授称号授与式を挙行しました。

総長より称号を授与された方は、次の58名です。

氏 名	推 薦 部 局	氏 名	推 薦 部 局
三 芳 秀 人	農学研究科	浅 野 雅 秀	医学研究科
高 橋 基 樹	アジア・アフリカ地域研究研究科	市 橋 則 明	医学研究科
小 倉 雅 紀	人間・環境学研究科	青 木 慎 也	基礎物理学研究所
保 川 清	農学研究科	阪 井 康 能	農学研究科
永 尾 雅 哉	生命科学研究科	小 泉 順 子	東南アジア地域研究研究所
高 木 博 志	人文科学研究所	二 木 史 朗	化学研究所
吉 田 純	人間・環境学研究科	鈴 木 基 史	法学研究科
寺 嶋 正 秀	理学研究科	大 森 孝 一	医学研究科

大学の
動き

氏 名	推 薦 部 局	氏 名	推 薦 部 局
浅 香 勲	iPS 細胞研究所	岡 本 宗 裕	ヒト行動進化研究センター
貴 志 俊 彦	東南アジア地域研究研究所	西 山 峰 広	工学研究科
宇佐美 文理	文学研究科	横 地 優 子	文学研究科
高 橋 靖 恵	教育学研究科	杉 山 淳 司	農学研究科
吉 本 道 雅	文学研究科	伊 藤 順 一	農学研究科
楠 見 孝	教育学研究科	CRUZ NARANJO, Ana Maria	防災研究所
田 中 功	工学研究科	岡 敏 弘	公共政策連携研究部
松 崎 勝 巳	薬学研究科	中 北 英 一	防災研究所
喜 多 一	国際高等教育院	田 上 高 広	理学研究科
中 村 祐 司	エネルギー科学研究科	道 坂 昭 廣	国際高等教育院
秋 津 元 輝	農学研究科	上 村 匡	生命科学研究科
田 中 仁	エネルギー科学研究科	澁 谷 拓 郎	防災研究所
奥 田 浩 司	工学研究科	矢ヶ崎 一幸	情報学研究科
近 藤 直	農学研究科	森 泰 生	工学研究科
岡 田 暁 生	人文科学研究所	松 田 祐 司	理学研究科
杉 浦 邦 征	工学研究科	土 居 伸 二	工学研究科
野 田 進	工学研究科	山 本 敬 三	法学研究科
川 上 養 一	工学研究科	廣 井 良 典	人と社会の未来研究院
田中 耕一郎	理学研究科	柴 田 章 久	経済研究所
Hau, Caroline Sy	東南アジア地域研究研究所	國 府 寛 司	理学研究科
岩 井 一 宏	医学研究科	豊 島 文 子	医生物学研究科



(人事部 (人事企画課))

[目次に戻る ↗](#)

永年勤続功労表彰式を挙行

2025年3月31日(月)に、永年勤続功労表彰式を本部棟5階大会議室において挙行之、湊 長博 総長、被表彰者20名が出席しました。

大学の
動き

本表彰は、勤続年数が30年以上の教職員に対し、その永年にわたる功労をたたえるためのもので、2024年度の被表彰者は45名でした。

表彰式では、出席した被表彰者の氏名を紹介した後、湊総長が代表者に表彰状を授与し、祝辞を述べました。祝辞では永年本学の発展のために一人ひとりが尽力してきたことに対し、謝意が表されました。

祝辞の後はおのおので交流を深め、和やかな雰囲気の中、式は終了しました。



表彰状授与



祝辞を述べる湊総長



出席した被表彰者との集合写真

(人事部(労務課))

[目次に戻る](#)

第17回京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）表彰式を 挙

優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を顕彰する制度である「京都大学たちばな賞（優秀女性研究者賞）」の第17回表彰式を2025年3月7日（金）に挙

表彰式は、国際科学イノベーション棟シンポジウムホールでのオンサイト開催およびWeb会議システムを使用したライブ配信形式で実施しました。

最初に選考委員長である稲垣恭子 理事・副学長から、選考経緯に関する報告を交えた開会の挨拶があり、引き続き、たちばな賞研究者部門受賞者の森谷理紗 人文科学研究所特定准教授、学生部門受賞者の石村奈々さん（医学研究科 博士課程4年）に、湊 長博 総長から表彰状と記念楯が授与されました。続いて、副賞の「ワコール賞」が川西啓介 株式会社ワコール代表取締役社長執行役員から贈呈されました。

また、優秀女性研究者賞奨励賞受賞者の田財里奈 基礎物理学研究所助教にも、同じく湊

大学の
動き

総長から表彰状が、川西代表取締役社長執行役員から副賞の「ワコール賞」が贈呈されました。

その後、湊総長から受賞者へ祝福の言葉と女性研究者のさらなる活躍を期待するエールが送られ、川西代表取締役社長執行役員から受賞者へ祝辞が述べられました。

引き続いて、たちばな賞受賞者による研究発表が行われ、森谷特定准教授は「シベリア抑留下の芸術と人間」について、石村さんは「慢性腎臓病における健康の社会的決定要因」について発表し、会場の関係者は熱心に聞き入っていました。

最後に、奨励賞受賞者の田財助教から挨拶があり、受賞者たちの優れた発表が光る会となりました。



開会の挨拶を述べる稲垣理事



祝辞を述べる湊総長



祝辞を述べる川西代表取締役社長執行役員



表彰状・記念楯授与の様子



受賞者による研究発表の様子



受賞者および関係者

(人事部(職員育成課))

[目次に戻る](#)

大学の
動きKuSuKu アカデミックプログラム「能^{はやし}囃子体験 つづみを打とう!」、「きょうげんであそぼ!」を実施

学童保育所「京都大学キッズコミュニティ KuSuKu (クスク)」では、KuSuKu アカデミックプログラムの一環として、2025年3月22日(土)と25日(火)に、日本の伝統芸能である能囃子と狂言を体験するイベントを開催しました。

22日は、能楽師・石井流大^{おおつづみ} 鼓 方の谷口正壽氏と、能楽師・幸流小鼓方の林 大輝氏をお迎えし、「能囃子体験 つづみを打とう!」を実施しました。まず、鼓の仕組みや、演奏の際に発する掛け声の意味について学びました。掛け声を通じて演者同士の「間」が調和することを知り、子どもたちは能の奥深さに触れました。続いて、京都大学観世会の部員による謡^{うたい}とともに、演目「安宅^{あたか}」を鑑賞しました。勇壮な弁慶の姿が描かれるこの演目では、小鼓のやわらかく繊細な響きと、大鼓の鋭く力強い音が相まって、子どもたちは真剣に耳を傾けていました。その後、小鼓と大鼓の実演体験を行い、徐々にリズムをつかみながら演奏を楽しみました。最後には、一日をめでたく締めくくる祝いの演目である「猩々^{しょうじょう}」を鑑賞し、能囃子の魅力を存分に味わいました。

25日は、狂言師の河田全体氏と由谷鈍行氏をお迎えし、「きょうげんであそぼ!」を実施しました。最初に、狂言の基本である「ものまね」を体験し、子どもたちはお互いの動きを観察し、まねながら、表現の楽しさ・奥深さに引き込まれました。続いて、声の出し方や、狂言独特の「そろりそろり」と歩く動きを練習し、舞台での身体^{からだ}の使い方を学びました。その後、演目「柿山伏」を鑑賞しました。この演目では、柿をこっそり盗み食いする山伏と、それを懲らしめる柿の木の持ち主の掛け合いが描かれます。鑑賞後、子どもたちもそれぞれの役になりきって、大きな声を出しながら演じていました。

能囃子と狂言、それぞれの体験を通じて、子どもたちは日本の伝統芸能に親しみ、表現することの楽しさを学びました。リズムや間合いを大切にしながら演奏や演技をすることで、お互いに心を通わせる感覚を味わう、貴重な機会となりました。

【関連リンク】

学童保育所 京都大学キッズコミュニティ (KuSuKu) - 京都大学男女共同参画推進センター

<https://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/support/care/community/>



能囃子体験の様子



狂言体験の様子

(人事部(職員育成課))

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

令和6年度「総長賞表彰式」を挙行

学業・課外活動・社会貢献活動等において顕著な活躍をし、本学の名誉を高めた学生および学生団体を表彰する「京都大学総長賞」の令和6年度表彰式を、2025年3月11日(火)に挙行了しました。

今回は、全18件の推薦の中から選考の結果、学業から3名、課外活動から4名の受賞者が表彰されました。

湊 長博 総長が表彰状等の授与を行った後、湊総長と受賞者が受賞内容について懇談を交わし、和やかな雰囲気の中、閉式となりました。



表彰式の様子



受賞者および関係者

令和6年度総長賞受賞者一覧

被推薦者・団体名	推薦対象分野	推薦理由・受賞歴等
情報学研究科情報学専攻 修士1回生 キタイケ ヒロアキ 北池 弘明	学業	半導体分野世界最高峰の国際会議 (IEEE Symposium on VLSI Technology and Circuits) において、西日本の大学から唯一、かつ最年少で採択。IEEE 国際会議において9件の研究成果を発表、LSI とシステムのワークショップ最優秀ポスター賞 (学生部門) を受賞。
生命科学研究科統合生命科学専攻 博士3回生 タチバナ リョウ 立花 諒	学業	「葉緑体が過剰に発達すると、逆に光合成活性が低下する」という、これまでの植物研究の常識を覆す重要な発見。「Nature Communications」誌に採択。国内学会で27件、国際学会で10件の学会発表を行い、計五つの優秀発表賞を受賞。
情報学研究科情報学専攻 博士1回生 ナカイ タイシ 中井 大志	学業	多くの人が信じているものの、経験則にすぎなかったブロックチェーントリレンマを世界で初めて数理的に示した。国際学会および国際誌で採択され、CSS 最優秀論文賞、SCIS 論文賞、インターネットアーキテクチャ優秀研究賞、ICT イノベーション優秀研究賞、優秀修士論文賞を受賞。JST BOOST、JST ACT-X、学術振興会 DC 2 に採択。
教育学部 学部3回生 イシバシ マオ 石橋 真央	課外	第67回短歌研究新人賞で次席を受賞、第7回笹井宏之賞で最終候補を通過、第36回歌壇賞で大賞を受賞。歌壇の四大新人賞のうち三つで成果を上げた。

大学の
動き

被推薦者・団体名	推薦 対象 分野	推薦理由・受賞歴等
文学部 学部4回生 スズキ エリカ 鈴木 鈴佳	課外	第39回全日本学生居合道大会の個人戦の部において優勝。本学で女子選手が優勝するのは初。並外れた努力家であり、この4年間ほぼ毎日稽古を欠かさず、その頻度は年間360日以上に及ぶ。3回生時には主将として居合道部を率い、昨年度に開催された第38回全日本大会に出場して団体戦で準優勝。
理学部 学部4回生 ツツイ リョウスケ 筒井 涼輔	課外	外務省主催の第39回国際問題プレゼンテーション・コンテストにて「日・ASEAN賞」という特別賞を受賞し、その功績が認められ、本学学生として初となる外務大臣表敬訪問を行った。同学生は、39回目にして初めて参加が認められた日本国籍でないもの(ASEAN諸国の国籍を有する者)とともに、国籍が異なる者からなる混成チームとして参加した。
宇宙木材研究学生チーム (代表) 工学研究科 材料工学専攻 修士1回生 ホソツジ イチ 細辻 一	課外	京都大学が開発した最初の人工衛星で、かつ、世界初の「木造」人工衛星である LignoSat (リグノサット) の開発、製造に主体的に取り組み、人工衛星として運用されるまでの一連の過程を実現に導いた。今後の衛星の管制業務も担う。

(学務部(厚生課))

[目次に戻る](#)

令和6年度大学院学位授与式を挙行

2025年3月24日(月)に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、教育・学生・入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、令和6年度大学院学位授与式を挙行しました。湊 長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。

学位授与者数は次のとおりです。

修士

学 位 名	2025年3月24日付授与者数			左記のうち留学生数			累 計
	男	女	計	男	女	計	
修士(文学)	57	39	96	12	12	24	5,755
修士(教育学)	21	19	40	4	3	7	1,766
修士(法学)	9	8	17	8	7	15	1,611
修士(経済学)	46	13	59	28	12	40	2,274
修士(理学)	246	33	279	7	4	11	12,935
修士(医科学)	12	14	26	1	6	7	515
修士(人間健康科学)	23	45	68	0	1	1	970
修士(薬科学)	31	20	51	1	3	4	857
修士(工学)	581	96	677	27	24	51	37,433

大学の
動き

学 位 名	2025年3月24日付授与者数			左記のうち留学生数			累 計
	男	女	計	男	女	計	
修士（農学）	183	105	288	7	10	17	12,497
修士（人間・環境学）※ ¹	78	53	131	19	18	37	4,351
修士（エネルギー科学）	115	8	123	8	0	8	3,469
修士（地域研究）※ ²	8	7	15	0	0	0	537
修士（情報学）	196	14	210	42	6	48	4,795
修士（生命科学）	40	34	74	1	1	2	1,900
修士（総合学術）※ ²	2	2	4	0	0	0	85
修士（地球環境学）	15	21	36	2	10	12	872
修士（文学）※ ³	0	7	7	0	6	6	45
修士（グローバル経済・地域創造）※ ³	0	0	0	0	0	0	13
修士（社会健康医学）	—	—	—	—	—	—	66
修士（薬学）	—	—	—	—	—	—	2,299
総 計	1,663	538	2,201	167	123	290	95,045

※留学生数は在留資格「留学」のみ

※1：修士（人間・環境学）は、累計に一貫制博士課程の修士修了相当授与者9名含む

※2：修士（地域研究）および修士（総合学術）は、一貫制博士課程の修士修了相当授与者のみ

※3：国際連携教育課程

修士（専門職）

学 位 名	2025年3月24日付授与者数			左記のうち留学生数			累 計
	男	女	計	男	女	計	
社会健康医学修士（専門職）	15	19	34	2	1	3	667
公共政策修士（専門職）	31	13	44	3	2	5	722
経営学修士（専門職）	56	37	93	21	21	42	1,474
総 計	102	69	171	26	24	50	2,863

※留学生数は在留資格「留学」のみ

法務博士（専門職）

学 位 名	2025年3月15日付授与者数			左記のうち留学生数			累 計
	男	女	計	男	女	計	
法務博士（専門職）	101	40	141	0	0	0	3,055
総 計	101	40	141	0	0	0	3,055

大学の
動き

博士 令和6年11月25日付、令和7年1月23日付、3月24日付

■課程博士

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	旧制 授与 者数	累計
	2024年11月			2025年1月			2025年3月					
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計			
博士(文学)	1	2	3	2	1	3	10	9	19	25	301	1,280
	0	2	2	1	0	1	4	6	10	13		
博士(教育学)	0	0	0	0	0	0	5	9	14	14	－	323
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
博士(法学)	0	0	0	0	0	0	5	4	9	9	126	450
	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3		
博士(経済学)	0	0	0	0	0	0	6	6	12	12	80	790
	0	0	0	0	0	0	1	5	6	6		
博士(理学)	3	1	4	2	2	4	72	9	81	89	1,073	6,239
	2	1	3	1	1	2	14	1	15	20		
博士(医学)	5	1	6	7	6	13	32	19	51	70	5,742	10,933
	1	0	1	2	2	4	4	3	7	12		
博士(医科学)	0	0	0	1	0	1	3	2	5	6	－	169
	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1		
博士 (社会健康医学)	0	0	0	1	0	1	4	2	6	7	－	146
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1		
博士 (人間健康科学)	0	1	1	0	0	0	4	5	9	10	－	138
	0	1	1	0	0	0	1	2	3	4		
博士(薬学)	0	0	0	0	0	0	5	0	5	5	308	1,183
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
博士(薬科学)	0	0	0	0	0	0	8	4	12	12	－	205
	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3		
博士(工学)	5	1	6	2	2	4	80	11	91	101	1,380	6,780
	2	1	3	2	1	3	26	9	35	41		
博士(農学)	0	2	2	1	2	3	27	8	35	40	641	3,321
	0	2	2	1	2	3	7	2	9	14		
博士 (人間・環境学)	2	1	3	1	1	2	20	14	34	39	－	1,181
	2	0	2	1	0	1	2	3	5	8		
博士 (エネルギー科学)	1	0	1	2	0	2	9	3	12	15	－	503
	1	0	1	1	0	1	4	3	7	9		
博士(地域研究)	0	0	0	0	0	0	3	10	13	13	－	348
	0	0	0	0	0	0	1	3	4	4		

大学の
動き

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	旧制 授与 者数	累計
	2024年11月			2025年1月			2025年3月					
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計			
博士(情報学)	2	1	3	3	0	3	12	6	18	24	－	922
	1	1	2	0	0	0	4	1	5	7		
博士 (総合学術)※ ¹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	－	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
博士(生命科学)	1	1	2	0	1	1	8	2	10	13	－	546
	0	0	0	0	1	1	1	0	1	2		
博士 (総合学術)※ ²	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	－	43
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1		
博士 (地球環境学)	1	0	1	0	0	0	0	5	5	6	－	274
	1	0	1	0	0	0	0	3	3	4		
博士(経営科学)	0	0	0	0	0	0	5	0	5	5	－	38
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
博士 (ゲノム医学) 国際連携	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	－	4
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
総 計	21	11	32	22	15	37	319	129	448	517	9,651	35,818
	10	8	18	10	7	17	71	47	118	153		

※留学生数は在留資格「留学」のみ

※1：情報学研究科 ※2：総合生存学館

■論文博士

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	累計
	2024年11月			2025年1月			2025年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	0	0	0	1	0	1	2	0	2	3	677
博士（教育学）	0	0	0	0	1	1	1	2	3	4	186
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	205
博士（経済学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	409
博士（理学）	0	0	0	0	0	0	1	1	2	2	1,585
博士（医学）	2	2	4	2	0	2	9	1	10	16	2,350
博士（医科学）	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	13
博士（社会健康医学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
博士（人間健康科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	774
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6

大学の
動き

学 位 名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	累計
	2024年11月			2025年1月			2025年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（工学）	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	4,217
博士（農学）	0	0	0	2	1	3	2	5	7	10	2,931
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（人間・環境学）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	57
博士（エネルギー科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33
博士（情報学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	97
博士（生命科学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	32
博士（地球環境学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19
総 計	3	3	6	6	2	8	16	9	25	39	13,691
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	

※留学生数は在留資格「留学」のみ

■博士課程教育リーディングプログラム（課程博士授与者の内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	累計
	2024年11月			2025年1月			2025年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
京都大学大学院思修館	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	46
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
グローバル生存学 大学院連携プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51
充実した健康長寿社会 を築く総合医療開発 リーダー育成プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
デザイン学大学院連携 プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33
霊長類学・ワイルドラ イフサイエンス・リー ディング大学院	1	1	2	0	0	0	0	2	2	4	34
	1	1	2	0	0	0	0	2	2	4	
総 計	1	1	2	0	0	0	0	3	3	5	194
	1	1	2	0	0	0	0	3	3	5	

※留学生数は在留資格「留学」のみ

大学の
動き

■卓越大学院プログラム（課程博士授与者の内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数※）									総計	累計
	2024年11月			2025年1月			2025年3月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
先端光・電子デバイス創 成学	0	0	0	0	0	0	15	1	16	16	51
	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3	
メディカルイノベーション	0	1	1	0	1	1	3	2	5	7	19
	0	1	1	0	1	1	0	0	0	2	
プラットフォーム学	0	0	0	0	0	0	4	0	4	4	8
	0	0	0	0	0	0	2	0	2	2	
総 計	0	1	1	0	1	1	22	3	25	27	78
	0	1	1	0	1	1	4	1	5	7	

※留学生数は在留資格「留学」のみ



式辞を述べる湊総長



学位記授与の様子

（学務部（教務企画課））

[目次に戻る ↗](#)

令和6年度卒業式を挙行

2025年3月24日（月）に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、井村裕夫 元総長、尾池和夫 元総長、山極壽一 前総長、教育・学生・入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、令和6年度卒業式を挙行了しました。湊 長博 総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。

学位授与者数は次のとおりです。



式典に臨む卒業生



学位記授与の様子

大学の
動き

学士

学 位 名	2025年3月10日、 24日付卒業者数			左記のうち留学生数			旧制 卒業生数	累 計
	男	女	計	男	女	計		
学士（総合人間学）	85	37	122	0	2	2	－	3,695
学士（文学）	137	91	228	1	0	1	4,711	18,905
学士（教育学）	37	28	65	1	1	2	－	4,160
学士（法学）	225	86	311	2	0	2	14,531	40,358
学士（経済学）	197	30	227	2	1	3	8,067	25,178
学士（理学）	299	19	318	5	2	7	2,984	21,314
学士（医学）※1	88	14	102	0	0	0	5,673	13,496
学士（人間健康科学）※1	36	71	107	0	0	0	－	2,338
学士（薬学）※1※2	6	9	15	0	0	0	－	4,120
学士（薬科学）	42	24	66	0	0	0	－	887
学士（工学）	849	96	945	21	8	29	8,606	70,149
学士（農学）	199	119	318	0	1	1	3,392	22,419
小 計	2,200	624	2,824	32	15	47	47,964	227,019
附属医学専門部	－	－	－	－	－	－	804	804
理工科大学	－	－	－	－	－	－	944	944
総 計	2,200	624	2,824	32	15	47	49,712	228,767

※1：医学部（医学）は平成22年度より3月10日付卒業

薬学部（薬学）は平成26年度より3月10日付卒業

医学部（人間健康科学）は平成29年度より3月10日付卒業

※2：薬学部（薬学）は4年制の薬学部（薬学）を含む（平成18年度より6年制に改組）

（学務部（教務企画課））

[目次に戻る ↗](#)

令和7年度学部入学式を挙行

2025年4月7日（月）に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、尾池和夫 元総長、卒業生でKOMPAS JAPAN株式会社 一級建築士事務所を主宰する小室 舞氏、教育・学生・入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、令和7年度学部入学式を挙行しました。式典では、湊長博 総長による式辞、小室氏による来賓祝辞がありました。

今年度の入学者数は次のとおりです。

令和7年度 学部入学者数

令和7年4月1日現在

区 分	一般入試 （前期）		特色入試		外国学校 出身者選抜		外国人留学 生特別選抜		学士入学		編入学		再入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女		女		女		女	
総合人間 学部	85	120	4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	89	125
	35		1		0		0		0		0		0		36	

大学の
動き

区 分	一般入試 (前期)		特色入試		外国学校 出身者選抜		外国人留学 生特別選抜		学士入学		編入学		再入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女		女		女		女	
文学部	126	213	3	10	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	130	225
	87		7		0		1		0		0		0		95	
教育学部	30	56	2	4	0	0	0	1	0	0	4	6	0	0	36	67
	26		2		0		1		0		2		0		31	
法学部	223	316	6	14	4	6	0	3	0	0	3	3	0	0	236	342
	93		8		2		3		0		0		0		106	
経済学部	186	218	8	23	6	6	2	3	0	0	0	0	0	0	202	250
	32		15		0		1		0		0		0		48	
理学部	273	298	8	10	0	0	3	6	0	0	0	0	0	0	284	314
	25		2		0		3		0		0		0		30	
医学部 (医学科)	88	109	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	91	112
	21		0		0		0		0		0		0		21	
医学部 (人間 健康科学科)	42	77	7	30	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	50	111
	35		23		0		0		0		3		0		61	
薬学部	57	79	0	4	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	58	85
	22		4		0		1		0		0		0		27	
工学部	829	921	12	27	0	0	16	28	0	0	3	3	0	0	860	979
	92		15		0		12		0		0		0		119	
農学部	203	291	8	15	0	0	1	1	0	0	0	0	1	1	213	308
	88		7		0		0		0		0		0		95	
総 計	2,142	2,698	61	145	10	12	23	45	1	1	11	16	1	1	2,249	2,918
	556		84		2		22		0		5		0		669	



式辞を述べる湊総長



祝辞を述べる小室氏

(学務部 (教務企画課))

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

令和7年度大学院入学式を挙

2025年4月7日(月)に、京都市勧業館みやこめっせにおいて、教育・学生・入試担当理事、関係部局長の出席のもとに、令和7年度大学院入学式を挙行しました。式典では、湊 長博 総長による式辞がありました。

今年度の大学院入学者数は次のとおりです。

令和7年度 修士課程入学者数

令和7年4月1日現在

区 分	入 学			転入学			総 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
文学研究科	71 (7)	36 (5)	107 (12)	2	3	5	73 (7)	39 (5)	112 (12)
教育学研究科	13 (1)	16 (3)	29 (4)	0	0	0	13 (1)	16 (3)	29 (4)
法学研究科	1 (1)	7 (3)	8 (4)	0	0	0	1 (1)	7 (3)	8 (4)
経済学研究科	45 (12)	19 (14)	64 (26)	0	0	0	45 (12)	19 (14)	64 (26)
理学研究科	258 (11)	27 (0)	285 (11)	0	0	0	258 (11)	27 (0)	285 (11)
医学研究科(医科学専攻等)	10 (2)	15 (7)	25 (9)	0	0	0	10 (2)	15 (7)	25 (9)
医学研究科(人間健康科学系専攻)	32 (1)	46 (3)	78 (4)	0	0	0	32 (1)	46 (3)	78 (4)
薬学研究科	42 (3)	22 (1)	64 (4)	0	0	0	42 (3)	22 (1)	64 (4)
工学研究科	602 (18)	88 (13)	690 (31)	0	0	0	602 (18)	88 (13)	690 (31)
農学研究科	194 (13)	131 (11)	325 (24)	0	0	0	194 (13)	131 (11)	325 (24)
人間・環境学研究科	95 (20)	56 (24)	151 (44)	0	0	0	95 (20)	56 (24)	151 (44)
エネルギー科学研究科	121 (7)	10 (1)	131 (8)	0	0	0	121 (7)	10 (1)	131 (8)
情報学研究科	193 (25)	17 (6)	210 (31)	0	0	0	193 (25)	17 (6)	210 (31)
生命科学研究科	31 (1)	23 (1)	54 (2)	0	0	0	31 (1)	23 (1)	54 (2)
地球環境学舎	13 (1)	20 (3)	33 (4)	0	0	0	13 (1)	20 (3)	33 (4)
総 計	1,721 (123)	533 (95)	2,254 (218)	2	3	5	1,723 (123)	536 (95)	2,259 (218)

※()内は、外国人留学生(留学ビザ留学生)で、内数

令和7年度 専門職学位課程入学者数

令和7年4月1日現在

区 分	入 学		
	男	女	計
法学研究科(法科大学院)	111 (1)	49 (0)	160 (1)
医学研究科	20 (2)	17 (0)	37 (2)
公共政策教育部	37 (1)	7 (1)	44 (2)
経営管理教育部	61 (15)	45 (14)	106 (29)
総 計	229 (19)	118 (15)	347 (34)

※()内は、外国人留学生(留学ビザ留学生)で、内数

大学の
動き

令和7年度 博士（後期）課程入学者数

令和7年4月1日現在

区 分	進 学		入 学		編入学		再入学・転入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
文学研究科 博士後期課程	22(6)	36(10)	0	0	0	6(4)	0	0	22(6)	42(14)
	14(4)		0		6(4)		0		20(8)	
教育学研究科 博士後期課程	11(1)	16(2)	0	0	1(0)	3(1)	1	2	13(1)	21(3)
	5(1)		0		2(1)		1		8(2)	
法学研究科 博士後期課程	10(6)	13(8)	0	0	9(1)	11(2)	0	0	19(7)	24(10)
	3(2)		0		2(1)		0		5(3)	
経済学研究科 博士後期課程	9(4)	11(5)	0	0	3(3)	5(3)	0	0	12(7)	16(8)
	2(1)		0		2(0)		0		4(1)	
理学研究科 博士後期課程	105(3)	120(6)	0	0	19(4)	26(4)	0	0	124(7)	146(10)
	15(3)		0		7(0)		0		22(3)	
医学研究科 博士後期課程	8(2)	18(5)	0	0	5(1)	7(1)	0	0	13(3)	25(6)
	10(3)		0		2(0)		0		12(3)	
医学研究科 博士課程(四年) ^{*1}	3(0)	6(3)	114(8)	165(27)	0	0	0	0	117(8)	171(30)
	3(3)		51(19)		0		0		54(22)	
医学研究科(人間 健康科学系専攻) 博士後期課程	1(0)	6(0)	0	0	6(0)	13(0)	0	0	7(0)	19(0)
	5(0)		0		7(0)		0		12(0)	
薬学研究科 博士後期課程	12(0)	16(1)	0	0	3(0)	4(0)	0	0	15(0)	20(1)
	4(1)		0		1(0)		0		5(1)	
薬学研究科 博士課程(四年)	0	0	3(0)	7(0)	0	0	0	0	3(0)	7(0)
	0		4(0)		0		0		4(0)	
薬学研究科 博士課程(一貫)	0	0	7(0)	8(0)	0	0	0	0	7(0)	8(0)
	0		1(0)		0		0		1(0)	
工学研究科 博士後期課程	63(11)	78(14)	0	0	39(12)	57(19)	0	0	102(23)	135(33)
	15(3)		0		18(7)		0		33(10)	
農学研究科 博士後期課程	29(2)	42(3)	0	0	14(2)	18(3)	0	0	43(4)	60(6)
	13(1)		0		4(1)		0		17(2)	
人間・環境学研 究科 博士後期課程	29(8)	46(13)	0	0	11(3)	18(6)	1	1	41(11)	65(19)
	17(5)		0		7(3)		0		24(8)	
エネルギー科学研 究科 博士後期課程	13(3)	13(3)	0	0	2(2)	4(3)	0	0	15(5)	17(6)
	0		0		2(1)		0		2(1)	

大学の
動き

区 分	進 学		入 学		編入学		再入学・転入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計	男	計	男	計
	女		女		女		女		女	
アジア・アフリカ 地域研究研究科 博士課程(一貫)	1(0)	1(0)	7(1)	22(3)	3(0)	5(1)	0	0	11(1)	28(4)
	0		15(2)		2(1)		0		17(3)	
情報学研究科 博士後期課程	26(4)	32(5)	0	0	15(2)	19(4)	0	0	41(6)	51(9)
	6(1)		0		4(2)		0		10(3)	
生命科学研究科 博士後期課程	17(2)	28(3)	0	0	5(2)	12(5)	0	0	22(4)	40(8)
	11(1)		0		7(3)		0		18(4)	
地球環境学舎 博士後期課程	1(0)	3(2)	0	0	5(1)	5(1)	0	0	6(1)	8(3)
	2(2)		0		0		0		2(2)	
経営管理教育部 博士後期課程	2(0)	2(0)	0	0	3(0)	4(0)	0	0	5(0)	6(0)
	0		0		1(0)		0		1(0)	
総合生存学館 博士課程(一貫)	0	1(0)	0	0	5(0)	8(0)	0	0	5(0)	9(0)
	1(0)		0		3(0)		0		4(0)	
総 計	362(52)	488(83)	131(9)	202(30)	148(33)	225(57)	2(0)	3(0)	643(94)	918(170)
	126(31)		71(21)		77(24)		1(0)		275(76)	

※1:進学6名は、本学他研究科修士課程または専門職課程修了後、当該課程に進学した者

※()内は、外国人留学生(留学ビザ留学生)で、内数



式辞を述べる湊総長



式典に臨む入学生

(学務部(教務企画課))

[目次に戻る](#)

「京都大学ポスターセッション2024」を実施

高大接続・入試センター主催による「京都大学ポスターセッション」を、2025年3月15日(土)に、百周年時計台記念館国際交流ホールにて実施しました。本企画は、ポスター発表を通じて高校生が日頃の課題探究活動の成果を披露するもので、2017年度から通算8回目の開催となりました。

今年は、全国の国公立高校31校から140名が参集し、文系理系合わせて31テーマのポスターが出展されました。参加した高校生は、企画開催に向けた研究成果のポスター発表を堂々

大学の
動き

と行い、他校の発表にも真剣な眼差しで評価したり質問したりする姿が見られました。

プレゼンテーション終了後、参加者全員による投票や複数の高校教員からの審査意見の結果、下記3校を優秀ポスター賞に決定しました。村上 章 高大接続・入試センター長から参加生徒に対する全体講評があり、「私の高校時代には課題探究の時間もなければ、ポスターセッションという企画ありませんでした。ただ、高校生の時に見た五山の送り火、その時のその光景がいまだに忘れられません。このことが京都大学に進学するという、大きな決断につながりました。友人の中には私と同じように、修学旅行で訪れた京都という場所が最初のきっかけだったと振り返る者もいます。こうしたささいなきっかけでも、その後の人生を大きく左右する出会いがあるものです。皆さんにも小さなきっかけや出会いでも、大切にして高校生活を過ごしてもらいたいと思っています」と語りました。

今後も高大接続・入試センターでは、さまざまな高大連携事業を実施していきます。

<優秀ポスター賞 受賞校>

●京都市立堀川高等学校

・研究テーマ

「マコデスペトラの葉脈が輝く意味と原理」

・講評

特徴的な植物の葉の仕組みについて、科学的に分析をしてまとめあげられています。参加者投票でも高評価を得るなど、一貫して細かく企画を立てられていて実行に移せています。

・受賞コメント

このたびは優秀ポスター賞をいただき、ありがとうございます。

植物を観察するという趣味から始まり、そこで生まれた小さな疑問に対する自分なりの答えを導く過程が研究という形となって評価されたことを大変うれしく思っています。

本研究はマコデス・ペトラの葉に焦点を当てたものですが、私自身ほかにもたくさんの植物の特徴や生態に興味を持っています。そのような魅力的な植物を今後もさまざまな形で多くの人に伝えられるように励んで参ります。

●愛知県立旭丘高等学校

・研究テーマ

「日本人の米飯摂取と循環器疾患発症リスクとの関連」

・講評

コメー疾患の関係が解明されれば、画期的な治療法が生み出されるかもしれません。未来志向が強く、意義のある研究であると思われます。遺伝情報についても、しっかり調べられています。

・受賞コメント

このたびは貴重な賞をいただきありがとうございます。1年間を通して栄養疫学という学問分野に対する概念的な理解から統計やゲノムに関する専門的な知識まで幅広く学んできました。実際にデータを収集するのは研究の信頼性上困難である中、高校生としてどのような研究を行うことができるか試行錯誤を重ねてきました。研究にあたりご指導いただいた名古屋大学大学院医学系研究科予防医学分野准教授の田村高志先生に、この場をお借りして感謝申し上げます。

大学の
動き

●佐賀県立佐賀西高等学校

・研究テーマ

「佐賀の規格外野菜を活用したビジネスの実現可能性を探る」

・講評

コストの計算までされており、実現可能性が非常に高い研究内容です。県ごとに廃棄量を出して、それをビジネスプランにするという視点がすばらしい。

・受賞コメント

このたびは、優秀ポスター賞をいただき、大変光栄に思います。本校では、生徒主体のグループ探究活動を1年間で行っており、受賞したグループは経済学部を志望する4名で活動してきました。今回の受賞は、地元佐賀の規格外野菜に関する課題を農業面からだけでなく、経済面から持続可能なかたちで解決したいという熱意と行動力によるものだと思います。

結びに、本研究に協力していただいたみなさま、評価していただいたみなさまに感謝申し上げます。



ポスター発表の様子



優秀ポスター賞を受賞した参加生徒代表

(学務部(入試企画課))

[目次に戻る ↗](#)

「Science Japan meeting 2025 一産官学連携による日本の科学力強化」および Science 編集長と本学若手研究者との座談会を実施

本学と米国科学振興協会 (AAAS) との共催で、2025年3月10日(月)に、「Science Japan meeting 2025」を百周年時計台記念館にて開催し、日本全国から約300名が参加しました。

はじめに、Bill Moran AAAS / Scienceパブリッシャーが開会の挨拶を行い、Science誌とその姉妹誌が持つ最新のグローバルなトレンドを紹介し、質の高い研究出版の重要性を強調しました。

続く基調講演では、Holden Thorp Science編集長が



Moran パブリッシャー

大学の
動き

「Science: Present and Future of Science」と題して登壇しました。Science誌が質の高い科学研究を発信し、科学と社会の橋渡しをするという重要な役割を担いつつ、現代の研究環境における課題にも目を向け、科学の健全な発展と社会への貢献を目指すことについて紹介がありました。

その後、斎藤通紀 高等研究院教授・ヒト生物学高等研究拠点 (ASHBi) 拠点長が、研究の世界が常に直面する課題について講演し、基礎研究の重要性や、研究者が抱える普遍的な課題、国際的な研究協力の必要性などについて意見を述べました。また、水本哲弥 独立行政法人日本学術振興会 (JSPS) 理事が、JSPSの活動を通じて、変化する環境における研究資金の現状と課題、そして今後の研究支援の方向性などについて講演しました。

パネルディスカッションでは、「What Can We Do to Enhance Science?」というテーマのもと、登壇者による活発な意見交換が行われました。

最後に、湊 長博 総長が閉会の挨拶を行い、会議全体を総括し、現代の研究大学の原則と使命として、研究者の自由な発想に基づく基礎研究の推進、学際的なプラットフォームを通じたグローバルな課題への貢献、新たな知識や発明を迅速に社会実装することの重要性を強調しました。

会議後には協賛企業と招待者が参加するネットワーキングセッションが行われました。石川冬木 副学長 (総合研究推進本部副本部長) からのメッセージの後、会議の内容についてさらに議論を交わし、交流を深めました。



Thorp 編集長



斎藤教授



水本理事



湊総長



パネルディスカッションの様子



石川副学長

大学の
動き

本会議で得られた知見をもとに、本学は、国内外の研究機関や企業との連携を強化し、日本の科学技術の発展に貢献していきます。本学の研究者・学生にとっても、本会議は新たな連携の機会を得る貴重な場となりました。

また、その翌日には、清風荘にてScience編集長と本学若手研究者による座談会を実施しました。本座談会は、次世代を担う若手研究者（PI）が、自身の研究活動やビジョンについて語り、研究活動を推進する研究環境や成果の発信について理想と課題を共有すること、そして世界のトップ研究者が築く研究環境や研究成果の発信についてScienceの編集長やAAASのCommunication Directorと意見交換を行い、日本の次世代研究者が意識を高めるべきポイントを探ることを目的として企画されました。

当日はまず、モデレーターを務めた田中 功 工学研究科教授（総合研究推進本部副本部長）が本学の多様な研究活動の魅力や、座談会の趣旨について紹介しました。その後、有蘭美沙 白眉センター特定准教授、門脇浩明 同特定准教授、齋藤 敬 総合生存学館教授が、それぞれの研究内容とPIとしての挑戦課題について紹介しました。

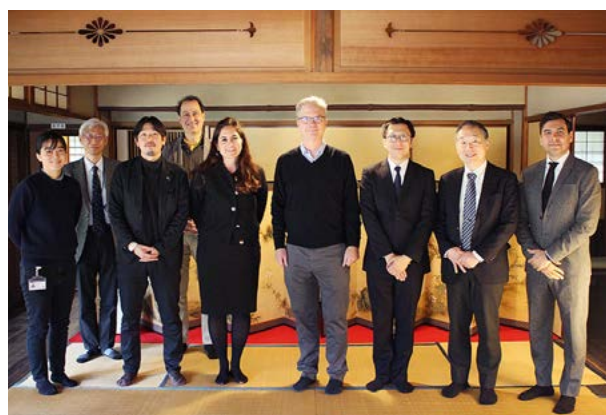
その後、Thorp編集長との対話が行われ、学術誌における研究評価の傾向について具体的な議論が交わされました。特に、近年の国際共同研究の増加に伴い、個別の研究がどのように評価されるべきかについて、活発な意見交換が行われました。

また、査読制度の改善やオープンアクセス出版の課題についても議論が展開されました。査読プロセスにおける過剰な要求への対応や、持続可能な研究成果の公開方法について、Thorp編集長からの見解が示され、本学の研究者にとって今後の国際発信の指針となる貴重な機会となりました。

本座談会を通じて、国際的な研究発信の強化に向けた具体的な課題と今後の方向性を確認することができました。今後も、本学の研究者が世界のトップジャーナルと直接対話し、国際的な科学コミュニティとの連携を深める機会を創出していきます。



若手研究者との座談会の様子



集合写真

（総合研究推進本部）

[目次に戻る](#)

Kyoto University SPIRIT2 Award 2025 の受賞者が決定

総合研究推進本部が企画・運営する学内ファンドプログラム「新領域創生研究支援事業（SPIRIT2）」は、本学の学術研究の質をさらに高め、多様性豊かな研究を育むことを目的に、2023年度に設立されました。特に将来、世界的な存在感を持つ学術的新領域へと発展することが期待される萌芽的^{ほうが}な研究を支援しています。

研究実績ではなく、独創的な構想力・着想力を評価の中心とすることを特徴とする本事業は、2025年度から「賞」として位置づけられることになりました。人文社会科学から自然科学、基礎研究から応用研究に至るまで、すべての分野を対象に、新たな研究領域の創生を目指す意欲的な提案を募集しています。学内審査を経て選ばれた研究代表者には、研究推進担当理事から Kyoto University SPIRIT2 Award が授与されます。

2025年度は、以下の8名が受賞しました。

● 2025年度 Kyoto University SPIRIT2 Award 受賞者

所属部局名	氏名	研究課題名
生命科学研究科	五十嵐 太 一	ストレス適応生物学から拓く発がんパラダイムシフト：ストレス適応はがん遺伝子を選択するか？
医学研究科	兼 重 美 希	AI 結合型人工神経回路の付与による新たなアンチエイジング法の創出
農学研究科	菅 瀬 謙 治	Rheo-NMR とソフトマター物理の融合による分子流動ダイナミクスの革新的解析
工学研究科	高 橋 重 成	生命の起源を紐解く：有機物創生における革新的パラダイムの構築
生命科学研究科	高 原 和 彦	病原体の宿主制御因子を用いた新たな免疫制御手法
理学研究科	福 間 将 文	量子多体系の実時間ダイナミクスに対するモンテカルロ法の開発
医生物学研究所	牧 功 一 郎	静水圧が駆動するゲノムワイドの力学
生存圏研究所	松 葉 史 紗 子	ナラティブと統計数理モデルの統融合による複雑システムへのアプローチ - 漁村コミュニティの連関構造を紐解く -

(総合研究推進本部)

[目次に戻る](#)

第11回京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウムを開催

第11回京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウムを、2025年2月8日（土）にJPタワーホール&カンファレンスにて開催しました。本シンポジウムは2014年から毎年開催しているもので、一般市民、高校生、研究者など合わせて305名の参加者がありました。

京都大学－稲盛財団合同京都賞シンポジウムとは、京都大学の主催、稲盛財団の共催により、日本が世界に誇る国際賞である京都賞（稲盛財団主催）の授賞対象分野について、講演などを通じてさまざまな出会いを生み、各分野の新たな発展へとつながる場を提供するとともに、次世代の研究者の育成や、最先端の学術・芸術の動向や魅力を広く社会に発信することを目的として開催しています。

大学の
動き

今回は、「地震の深層／真相を探る」を統一テーマとして、西村卓也 防災研究所副所長・教授、加藤愛太郎 東京大学地震研究所教授、山田真澄 防災研究所准教授の3名が講演を行いました。講演では、地震の基礎的知識に始まり、最新の測量技術を用いた地震の解析や、プレート境界の断層がゆっくり動く現象であるスロー地震の解説、緊急地震速報の成り立ちや改善の歴史の紹介など、幅広いトピックが語られました。

講演後には、中北英一 副理事・防災研究所教授をモデレーターとして迎え、講演者によるパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、参加者からの質問に対して、それぞれの研究者の立場から見解が述べられたほか、地震予知の難しさや、これからの



講演する西村教授



講演する加藤教授



講演する山田准教授



モデレーターの中北副理事



パネルディスカッションの様子



集合写真

大学の
動き

地震に対する心構えなどが話し合われました。

参加者からは、「日本が地震対策に取り組んでいる内容だけでなく、予知について現実を率直に共有いただき、生きた言葉で聞くことができたと思います」、「先端の研究者から直接に講演を聴ける貴重な時間でした。難しい学問を理解しやすい講義にされている講師の方のプレゼン力にも感心しました」といった感想が寄せられ、盛況のうちに終了しました。

【関連リンク】

本シンポジウムの動画を、以下のWebサイトで公開しています。

京都大学一稲盛財団合同京都賞シンポジウム

<https://kuip.hq.kyoto-u.ac.jp/>

(成長戦略本部)

[目次に戻る ↗](#)

寄付型飲料自動販売機を設置

2025年3月19日(水)に、附属図書館に寄付型飲料自動販売機を設置しました。

本機の設置は、株式会社伊藤園の社会貢献事業として提案があったもので、毎月の売り上げのうち10%が京都大学基金に寄付される仕組みです。

附属図書館の入口付近の外側に設置しているため、学生や教職員はもとより、一般の方も利用できるうえ、本機の近く

には、学生の利用できる自習スペース「学習室24」があり、そこでは飲食が可能なスペースもあります。学生にとっても気軽に始められる寄付となっています。なお、本機は、本学卒業生のイラストレーターが手がけた時計台のイラストでラッピングされており、電子マネー対応、学内初の災害対応の自販機です。

京都大学基金にいただいた寄付は、学生や研究者の活動支援や教育研究環境の整備などのために活用されます。飲み物1本からできる支援ですので、ぜひご利用ください。

(成長戦略本部)

[目次に戻る ↗](#)



寄付型飲料自動販売機

京都府、京都市と包括連携協定を締結

このたび、本学は、京都府および京都市と、世界から京都に多様な人材を呼び込み、次世代に向けた新たな価値や技術を創造し、京都の未来を切り拓くとともに、わが国における行政と大学との連携による国際的な学術都市形成をけん引することを目的に、2025年3月26日(水)に、三者での包括的な連携協定を締結しました。

今後、三者は協定で合意した連携・協力事項をより効果的に機能させるため、具体的な取り組みや実施方法などについて、定期的に協議を行い、さらなる連携を推進していきます。

大学の
動き



左から、湊 長博 総長、西脇隆俊 京都府知事、松井孝治 京都市長

【関連リンク】

プレスリリース：京都府、京都市及び京都大学との連携協定の締結について

<https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/inline-files/250326-press-release-297cff165dfa8b74f3015627c7703e06.pdf>

(成長戦略本部)

[目次に戻る ↗](#)



第1回大津事業場ヘルスケア講習会を開催

生態学研究センターでは、2025年3月7日（金）に、第1回大津事業場ヘルスケア講習会を同センターおよびオンラインにて開催し、同センターの教職員など約30名が参加しました。

まず、中野伸一 生態学研究センター長より開会挨拶があり、続いて、阪上 優 環境安全保健機構教授より「超長寿社会における仕事と治療の両立支援」をテーマとした講演が行われました。講演では、治療と仕事の両



講習会の様子

立支援の位置付けや意義および法的根拠や両立支援を行うための環境整備についての説明があったほか、中高年齢労働者に多いがん・心臓疾患・糖尿病の3疾患に焦点を当て、セルフケアと周囲の対応の両側面から注意すべき点について解説がありました。参加者は熱心に耳を傾け、講演後の質疑応答でも多くの質問がありました。

今回の講習会は、参加者にとって、現代社会における「仕事と治療の両立支援」に関する課題をより深く考える機会となりました。

（生態学研究センター）

[目次に戻る](#)

京都大学研究資源アーカイブが『『近畿地方の民俗学的調査』映像資料, 1933-1936』と『『近畿地方ヲ中心トスル民俗調査』録音資料, 1940-1943』を公開

京都大学研究資源アーカイブは、本学における教育や研究のプロセスで収集または作成された資料群をアーカイブズとして永続的に学内外で利用可能にする取り組みです。

今回公開したのは、『『近畿地方の民俗学的調査』映像資料, 1933-1936』と『『近畿地方ヲ中心トスル民俗調査』録音資料, 1940-1943』です。

<概要>

●『『近畿地方の民俗学的調査』映像資料, 1933-1936』

本映像資料は、1933年から3年間、京都帝国大学文学部西田直二郎 教授らが服部報公会の学術研究調査の援助金を得て、近畿地方の田楽・祭礼等を映画で記録したものです。全22件のうちデジタル化できたのは9件でした。戦前期の民俗学の映像記録としては、渋沢敬三とアチック・ミュージアムのメンバーによって撮影されたフィルムが知られています。本映像資料は、それと同時期に撮影された民俗学史上貴重なコレクションです。

[所蔵部局] 京都大学文学研究科日本史研究室を管理主体として、京都大学総合博物館に保管

[資料年代] 1933～1936年

[数量] 全体23件（16mm映画フィルム・空リール（資料番号：映画フィルム23）を含む）



〔メタデータ〕 34レコード

〔出所・資料作成〕 西田直二郎, [共同研究者] 柴田 実, [共同研究者] 柏倉亮吉; [撮影] 佐竹宣孝. 京都帝国大学国史研究室・国史学教室

〔目録作成〕 2024年



〔2-2〕 京都府天田郡 金山村上野條カミノジヨウ 八幡神社. [御勝八幡田楽, No.II.] [映像あり.], 映画フィルム 4.

〔7〕 奈良 春日若宮御祭田楽. [映像あり.], 映像フィルム 11.

● 『『近畿地方ヲ中心トスル民俗調査』録音資料, 1940-1943』

本録音資料は、1940年から3年間、京都帝国大学文学部藤 直幹 助教授らが、日本学術振興会の援助補助金を得て、神事歌謡・古民謡等をアルマイトレコードにより採集したものです。当時既刊の町田嘉章『日本民謡集成』（日本民謡レコード頒布会、1940）と重複しない新出音源です。

〔所蔵部局〕 京都大学文学研究科日本史研究室を管理主体として、京都大学総合博物館に保管

〔資料年代〕 1940～1943年

〔数量〕 全体 129枚（アルマイト吹込盤レコード）

〔メタデータ〕 134レコード

〔出所・資料作成〕 藤 直幹, [共同研究者・録音者] 平山敏治郎. 京都帝国大学国史研究室・国史学教室

〔目録作成〕 2024年



〔調査 14〕 苗取唄（一）. 島根県邑智郡日貫村青笹. / 苗取唄（二）. 島根県邑智郡日貫村青笹. , 録音盤 99.

同左、アルマイト吹込盤（紙製ジャケット）収納時.



【関連リンク】

京都大学研究資源アーカイブ

<https://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/>

「近畿地方の民俗学的調査」映像資料, 1933-1936.

<https://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/archives/4273/>

「近畿地方ヲ中心トスル民俗調査」録音資料, 1940-1943.

<https://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/archives/4408/>

京都大学大学院文学研究科日本史研究室

<https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/japanese-history/>

(総合博物館、大学院文学研究科)

[目次に戻る ↗](#)

第9回森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」を開催

森里海連環学を通じた持続可能社会の創成を目指して、フィールド科学教育研究センターと公益財団法人イオン環境財団の共催で、2025年3月25日(火)に北部総合教育研究棟にて、第9回森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」を開催しました。午前は106名、午後は114名が参加しました。

午前はプレ企画として、連携する全国の高校15校が里山・里海をテーマに、生物の生態や保全に関する研究や、環境DNAやリモートセンシングを使った研究など、日頃の研究成果の



広島県立広島高校の研究発表



ポスター発表の様子



館野センター長による挨拶



西原次長による挨拶



講演する紺頼さん

部局の
動き



講演する横部特任助教



講演する八柳特任助教



講演する田中特任講師

発表を行いました。本学教員が審査員となって、各発表について講評と表彰を行いました。

午後のシンポジウムでは、館野隆之輔 フィールド科学教育研究センター長と西原謙策 イオン環境財団事務局次長から開会挨拶があった後、紺頼 楓さん（農学研究科修士課程2年生）、横部智浩 フィールド科学教育研究センター特任助教、八柳 哲 同特任助教、田中拓弥 同特任講師の4名の講演者が、全国の里山における市民参加型の土壌や植生の調査結果、環境DNA技術を駆使した里海と河川における生物多様性評価、モデル里山・里海形成事業の一端で実施している上賀茂試験地での「里山おーぷんらば」の紹介など、「新しい里山・里海 共創プロジェクト」の最新の研究成果を発表しました。

最後の質疑応答では、「里山の植生や現状について、高校生が知っておくべきことはありますか?」という質問に対して、「まずは、近くの里山へ行って、里山を管理している方の話を聞いてみてほしい。また、松枯れやナラ枯れの現状を知ってほしい」と講演者から回答がありました。



登壇者の集合写真

また「環境DNAでは、河川の両生類を同定できますか? また、その種の量も分かるのですか?」という質問に対して「基本的に、DNA情報が分かっている種について同定ができ、生物の量も分かる」と回答がありました。

アンケートには「今回の交流を通して、改めて里山里海について考えるきっかけになった。来年もぜひ参加したい」、「上賀茂試験地の里山おーぷん



高校生の集合写真



らばに参加してみたい」などの感想が寄せられ、本シンポジウムが好評であったことがうかがえました。

【関連リンク】

森里海シンポジウム「里山里海の今を知る」(第9回) – 京大フィールド研

<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/blog/archives/39564>

(フィールド科学教育研究センター)

[目次に戻る ↗](#)

海外の大学間学生交流協定締結校への短期派遣プログラムを実施 (チュラーロンコーン大学・インドネシア大学・ウィーン大学)

国際高等教育院では、海外の大学間学生交流協定締結校に本学学生を約2週間派遣する全学共通科目キャリア形成科目群「多文化教養演習：見・聞・知@～」を実施しています。このたび、チュラーロンコーン大学、インドネシア大学、ウィーン大学にて、それぞれ本学学生がスプリングプログラムに参加しました。

国際高等教育院では、夏(8～9月)と春(2～3月)に東アジア、東南アジア、欧州の協定校にて、短期派遣プログラムを含む全学共通科目「多文化教養演習：見・聞・知@～」を提供しています。同科目は、長期留学への準備や、初めて海外の大学で学ぶ機会としても活用されています。今後も、海外留学に関心のある本学学生の積極的な履修を期待しています。

【チュラーロンコーン大学】

2025年2月13日(木)から28日(金)にかけ、5名の学生がタイのチュラーロンコーン大学にてスプリングプログラムに参加しました。



料理教室の様子

渡航前には、語学学習でタイ語を学びつつ、共同発表の準備のためチュラーロンコーン大学の学生と本学学生がオンラインで協議し、各グループの発表テーマについて意見を出し合いました。現地では、初級のタイ語講座、タイの仏教文化・歴史を学ぶ講義やタイ料理を学ぶ料理教室のほか、古都の遺跡があるアユタヤ歴史公園にも実



共同セミナーの様子



アユタヤでの実地研修の様子



地研修として訪問しました。

共同発表では、チューラーロンコーン大学で開講されている「日本の現代民俗学」の授業の一環として、本学学生と現地の学生が5つのグループに分かれて発表を行いました。発表テーマは「わが町の神様、伝説」や「学生にとってご利益のあるパワースポット」など、両大学の学生が実体験を交えながら両国の風習や神話を紹介し、類似点や相違点について議論しました。

【インドネシア大学】

2025年2月16日(日)から3月2日(日)にかけ、7名の学生がインドネシア大学にてスプリングプログラムに参加しました。

渡航前には、事前語学授業と共同発表に向けたセミナーを実施しました。インドネシア大学到着後は、海外学生向けのインドネシア語プログラムに参加し、語学授業だけでなく、伝統音楽ガムランの演奏実習や伝統建築が保存されているテーマパークを訪問しました。共同発表では、学生がそれぞれの専門分野での関心に合わせたテーマを選び、「都市部における公共交通機関の利用状況」、「日本とインドネシアの入試制度」など、両国でのアンケート等を通じて比較する調査を実施しました。ほかにも、共同発表を通じて親睦を深めた現地の学生と一緒に放課後の時間を過ごすなど、同プログラムでしか体験できない貴重な経験を得ることができました。



ガムランの演奏実習

学生がそれぞれの専門分野での関心に合わせたテーマを選び、「都市部における公共交通機関の利用状況」、「日本とインドネシアの入試制度」など、両国でのアンケート等を通じて比較する調査を実施しました。ほかにも、共同発表を通じて親睦を深めた現地の学生と一緒に放課後の時間を過ごすなど、同プログラムでしか体験できない貴重な経験を得ることができました。



伝統建築の見学



インドネシア語の授業

【ウィーン大学】

2025年3月5日(水)から3月17日(月)にかけ、15名の学生がオーストリアのウィーン大学にてスプリングプログラムに参加しました。

第3回となる本スプリングプログラムは、長年本学との学術交流を推進してきた Wolfgang Mazal ウィーン大学教授が中心となり、「Multidisciplinary Academic Seminar: Vienna 1880-1938 - Glory and Tragedy」というテーマで実施されま



シュテファン大聖堂でウィーン大学長との記念撮影



した。政治、都市化、音楽などの異なる学術的観点から、19世紀後半から20世紀前半における激動期のウィーンについて考察を深める構成になっています。

現地では、各分野の専門家による講義に加え、1365年創立のウィーン大学や周辺の歴史的建造物も視察しました。同大学の創立記念日3月12日には市中心部にあるシュテファン大聖堂における式典に参加し、またオーストリア＝ハンガリー帝国の時代からある国会議事堂の内部を見学するなど、本プログラムでしか体験できない貴重な経験を得ることができました。



授業風景



国会議事堂の視察

(国際高等教育院)

[目次に戻る](#)

第20回京都大学附置研究所・センターシンポジウム／京都大学鹿児島講演会を開催

研究連携基盤では、各研究所・センターの活動や生み出されている研究成果について広く一般社会に対してわかりやすく説明し、研究・教育活動、社会貢献活動への理解や支援・協力を得ることを目的として、年1回全国主要都市で一般市民の方を対象とした公開のシンポジウムを開催しています。第20回となる今回は、2025年3月1日(土)に、鹿児島市カクイクス交流センター(かごしま県民交流センター)にて開催し(後援:鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、読売新聞社)、オンライン参加も含め約1,000名が参加しました。

当日は、時任宣博 副学長の開会挨拶に引き続き、午前は、野々村恵子 医生物学研究所教授、井上治久 iPS細胞研究所教授、徳地直子 フィールド科学教育研究センター教授の講演、午後は、午前の講演への質問回答を挟み、山田大志 防災研究所附属火山防災研究センター助教、陶 俊帆 経済研究所講師、亀甲博貴 学術情報メディアセンター助教の講演と質問回答が行われました。

続くパネルディスカッションでは、辻井敬亘 研究連携基盤長の司会のもと、湊 長博 総長、時任副学長、山中伸弥 iPS細胞研究所名誉所長と講師5名により、「研究の先にある未来生活」のテーマで、AI(人工知能)との関わり方という観点から、健康や医療、災害を含めた自然との共存などについて活発な意見交換が行われ、最後に湊総長の総括・挨拶で盛会の中、終了しました。

また、昨年に引き続き、昼休憩時に、本学の所長・センター長等と中高生が昼食をとりながら質問や相談を行うコーナーを設け、満席となり整理券を発行するほどの盛況となりました。参加者からは、「昼食時の先生方とのミーティングによって、今までの思っていた像とはまた違う大

部局の
動き

学や研究についての見方を得ることができました。また、これからの学生生活においても役立つような考えを得ることができました」、「さまざまな分野の第一線で活躍されている方々の話を聞くことができて大きな刺激をもらいました。特に昼食時間に直接質問をしたり、話したりすることができて、日々の勉強のモチベーションとなりました」などの感想が寄せられました。

本シンポジウムでは、特に次世代を担う中高生の参加を歓迎しています。企画にあたっては「平易性、おもしろさ、モチベーションの高揚」といった観点を重視し、講演内容は研究者自身の経験や、その研究を始めるに至ったエピソードを交えるなど、わかりやすいものとなるよう努めています。今回、会場参加者の9割が高校生であり、その成果の一端が垣間見えた形となりました。



開会挨拶を行う時任副学長



パネルディスカッションの様子



総括・挨拶を行う湊総長



昼休憩時の、中高生と本学教員との交流コーナーの様子

(研究連携基盤)

[目次に戻る](#)

寸言

山形発「おもしろい、ええ会社」を目指して

森 安弘



私は、昭和63年つまり昭和最後の入学生です。優等生とは真逆の学生生活を送っていた小生が無事卒業したのは平成4年。4回生時の就職活動時はバブル景気の余韻の中にあり、大手一流企業が京大生を青田刈りしていた超売り手市場でした。中でも銀行・証券など金融機関による勧誘が強烈でしたが、在籍していた国際政治学ゼミの故・高坂正堯先生は金融機関嫌いでして、「金融機関に就職するゼミ生は罰金」というルールがありました。私は、罰金も嫌でしたし、高坂先生の弟君が総合商社マンだったこともあり、総合商社を志望しようかなと思いつつ先生に相談したところ、「おもしろそうやん。ええんちゃう。」と背中を押して頂きました。

卒業後、住友商事に入社。バブル入社組特有の「とにかく元気で前向き」という気質と、高坂先生の「おもしろそう」を大切にしながら会社人生を送っているうちに33年が経ちました。

現在、私はアイジー工業(株)という地方メーカーの社長をさせて頂いております。アイジー工業は、さくらんぼで有名な山形県東根市に本社を置き、鉄と断熱材を組み合わせた金属系外装材を製造し、長年業界トップシェアにあります。

1970年に故・石川 堯氏が個人創業し、同族経営しておりました。2001年、縁あって、住友商事に対し、石川氏から同族世襲ではなく大手企業に経営を託したいという打診がありました。商社マンに製造業の知見はない、ニッチ分野かつ地方メーカーの経営は無理、など消極的な上司が多い中、当時は若手だった私が、推進担当に立候補しました。高坂先生の「おもしろそうやん」の言葉、石川 堯と高坂正堯先生とは漢字が同じ、と私が勝手に強い縁を感じて本案件を推進し、2002年にアイジー工業と住友商事による資本業務提携に漕ぎつきました。その後、住友商事からの初代社長と私の2名が山形に赴任し、住友商事傘下の経営が始まりました。

2008年に私はアイジー工業から住友商事に戻り、東京、南米チリ、ブラジルなどの海外駐在を経て、2020年にアイジー工業に営業担当役員として再出向し、2023年に社長に就任しました。社長就任時に掲げたワードは「ええ会社」。関西弁は社長だけという山形県企業ですが、誰もやっていない「おもしろいこと」に挑戦し続け、地元や業界で一目置かれ、社員も誇りに感じる「ええ会社」を目指しております。

昨年11月、アイジー工業は、全社カーボンニュートラル(CN)を達成しました(Scope1+Scope2、クレジットを一部活用した実質ゼロ)。CNを目指す会社はたくさんありますが、掛け声ばかりで実際に実現する会社は意外に少ない中、建材メーカー初のCN達成ということで、地元や業界メディアなどから注目を浴びました。

山形発「おもしろい、ええ会社」を目指し、自由な発想力とチャレンジ精神だけは身に付けた京大OBの一人が山形県で奮戦中という話が、後輩の皆さんに、何かの決断の背中を少しだけでも押すことに繋がれば、これほどの喜びはありません。

(もり やすひろ、アイジー工業株式会社 代表取締役社長、平成4年法学部卒業)

[目次に戻る](#)

随 想

「パラダイム転換」を見すえて

名誉教授 溝端 佐登史



「経済学（経済理論）は何年ぐらいもつものですか」30年ほど前に政治学者から聞かれたことがある。科学たらしめる経済学は、経済人としての人間の行動を解明する学として精緻化され、発展を遂げてきた。あたかも物理学のように永遠の法則を見出したかのごとく、合理主義に依拠する価値観はもとより、経済体制は変わらないことが仮定され、経済学はより洗練されたモデルの構築を指向してきた。このことはわたしの研究対象であったソ連（ロシア）経済の研究にもあてはまり、体制に内在する問題の分析はできても変化の胎動を解明するツールは見つけられなかった。しかし、現実はいとも簡単にこうした与件を覆し、1990年代初頭に体制は崩壊することもあることが証明され、一転して経済システム・制度の多様性や体制移行が世界的にもはやされた。周辺領域担当の学者がいきなりメインストリームに押し上げられたと言ってもよい。件の疑問はその時に発せられたものだ。もっとも、市場経済は経済システムの核であることにはかわりはなく、むしろ体制崩壊は市場に、市場を研究するものにゆるぎない自信さえ植え付けてしまった。新自由主義の最盛期である。

現実には経済学にやさしくはなかった。21世紀に入ると、世界恐慌再来と言われた世界金融危機とグローバル危機の筆頭格である気候変動問題が深刻化し、いずれの危機も経済学の既存の方法だけではなく、価値規範そのものを試練にさらしたうえに、危機はそれに止まることはなかった。世界を委縮させナショナリズムに向かわせかつ財政を異常肥大化させた新型コロナ感染症パンデミック、そして大規模な戦争が目の前で繰り広げられた。いずれにおいても市場は後退し、国家が主役に躍り出た。パンデミック、戦争という事態に直面して、根本原因を解明する有効な経済学の方法、問題解決のための処方箋はまったく存在していない。そもそも経済学的前提に置かれた仮定にはこうした非常事態が含まれていないが、それが日常になったのだ。そうであれば、経済学は確実に「パラダイム転換」を、「変わることを」迫られている。

歴史を振り返ると、危機のたびにパラダイム転換が叫ばれたが、新しいパラダイム候補が生まれたようには見えない。それほどに市場の生命力は強く、それほどに経済学者は鈍感であったのかもしれない。そのうえに、競争と短期指向の業績主義が強まる今日、学者を志した時のしなやかな問題意識は影を潜め、ペーパー書きに没頭し、現実は見ないことにするのも経済学者のもっともな反応なのかもしれない。

経済学は人間科学としての真価を問われているが、そのための特効薬はなさそうだ。であれば、風通しの良い国際的な共同研究と京都大学が得意とする自由闊達な「駄弁」というか談論風発の場が必要であり、そのうえで、地球に降りかかる難題から目をそらさず、問題に誠実に対応し、エビデンスを探し出し、過去にとらわれることなく方法・理論、そして社会の常識を再考する。地味であってもこうした営み以外に手立てはないだろう。わたしもその営みの端くれに加わり、パラダイム転換への道筋を一緒に眺めてみたいと思う。

（みぞばた さとし、令和2年退職、元経済研究所教授、
現経済研究所特任教授、専門は比較経済学）

[目次に戻る](#)

洛 書

学生街の喫茶店

井田 大地



壮年のみなさまには懐かしい歌のタイトルを拝借しましたが、歌詞にあるような甘酸っぱい恋のお話しではありません。私は、25年ほど前に一乗寺にて下宿生活を始め、百万遍に通いました。大学院進学時に当時予定されていた桂キャンパス移転を見越して桂に越し、現在も桂に住んでいます。学生街の趣が色濃い一乗寺・百万遍界限、古い農村が新興住宅地に変わった桂界限、そして京都市街中心部では喫茶店のありようもさまざまです。

一乗寺駅のすぐそばに「花梨」という喫茶店がありました（現在はカフェ・バーになっているようです）。下宿近くだったこともあり、よく通いました。食事メニューが豊富で、私にとっては定食屋さんでした。ご近所のじいちゃん、ばあちゃんが「にいちゃん京大の学生かあ？」と話しかけて下さって、よく談笑したものです。学生に対する街の寛容を感じました。

百万遍界限に喫茶店は数あれど「学士堂」は私にとって特別なお店でした（閉店され無念です）。飾り気のないこじんまりとしたお店でしたが、店の奥には手入れされた中庭を望めました。カウンターでコーヒーを頂きタバコを燻らせ、中庭に移ろう季節を感じながら、静かに過ごす時間を懐かしく思い出します。朝早くから営業され、朝のお勤めがひと段落した知恩寺のお坊さんが来られていたのも印象的です。

桂界限の喫茶店は自動車で来店可能な大きなお店が多いのですが、私がよく利用するのは桂駅東西連絡通路にある「アマンド」です。朝は通勤客、昼から夕方にかけては地元の方々がやってくるお店で、時間によって雰囲気が変わるところが面白い。また、阪急桂車庫を一望できるので、私も含め鉄道ファンの方にはたまらないお店でもあります。

私が街中に出向くと必ず立ち寄るのが「六曜社珈琲店」です。繁華街にある小さなお店ですので、混雑していることが多く、私のように一人で利用する客は相席になることもしばしばです。幅広い年齢層に利用されており、グループで談笑する人、仕事の話をする人、黙って本を読む人など、千差万別の過ごし方を見受けれます。また、芸術を志す若者客が多いようにも思います。そのような客の様々と、シンプルで年季を感じる内装や調度品の雰囲気が相まって、独特の居心地の良さを感じます。

ここ20年ほどの間にチェーン店、コンビニや自販機のコーヒーの売り上げが伸び、紹介したような個性的な喫茶店は減少しています。低価格や便利さの優先のみならず、資本力を持つ者の宣伝に曝された利用客の価値観の均質化が背景にあるように思います。そのようなご時世だからこそ、小さな喫茶店でコーヒーを飲みながら、お店の雰囲気や町の風情に思いを馳せ、読書や論文執筆も悪くない。ボブ・ディランなら、本学が誇る自由な学風や独創的な研究を支えるのは、資本力や合理性よりも、小さな喫茶店を味わう心持ちだと言ってくれるのではと想像したり。

（いだ だいち、大学院工学研究科准教授、専門は高分子溶液学）

[目次に戻る ↗](#)

栄誉

柴田 大 基礎物理学研究所教授が紫綬褒章を受章

このたび、宇宙物理学研究における優れた業績により、柴田 大 基礎物理学研究所教授が、4月29日（火）に紫綬褒章を受章されました。

柴田教授は、長年にわたり、宇宙物理学、特に相対論的な宇宙物理学の研究、教育に努め、世界的な業績をあげるとともに、現在世界的に活躍する後進の育成に貢献しました。とりわけ、数値的に一般相対性理論の基本方程式であるアインシュタイン方程式を解くための研究である数値相対論、および中性子星合体の理論研究において、世界の第一人者として研究を推進しました。特に、独自に開発した数値コードを用いて、中性子星合体に対する一般相対論の数値計算を初めて実行し、さらにその研究を深化させることにより、最終的には中性子星合体で起きるさまざまな現象に対する首尾一貫した理論を構築しました。そして、2017年に初めて観測された中性子星合体現象を理解するうえで重要な貢献をしました。

（基礎物理学研究所）

[目次に戻る ↗](#)



木本恒暢 工学研究科教授が紫綬褒章を受章

このたび、炭化珪素（SiC）半導体材料および電力用素子の開発における優れた業績により、木本恒暢 工学研究科教授が、4月29日（火）に紫綬褒章を受章されました。

木本教授は、SiC半導体を用いて珪素（Si）に比べて桁違いに低損失の素子を世界で初めて実証しました。また、SiC半導体は原子の積層構造が異なる多数の種類が存在するために研究開発が遅れていましたが、同氏は4H型SiCの特性が他のSiCに比べて約一桁優れていることを見出し、さらに高品質4H型SiCの作製に成功してSi素子より二桁優れた性能を有する電力用素子を世界で初めて実証しました。また、同氏は自作の高品質SiC材料を用いて重要な物理的性質を解明するとともに、SiC素子の作製に必要な多くの基盤技術を確認し、産業界に技術移管しました。例えば、企業と共同開発したSiC半導体製造装置は現在、当該分野の標準装置となるなど、SiC半導体材料および電力用素子の学術分野の開拓および産業の創出に大きく貢献しました。

（大学院工学研究科）

[目次に戻る ↗](#)



栄誉

森本幸裕 名誉教授が「みどりの学術賞」を受賞

このたび、森本幸裕 名誉教授（京都市都市緑化協会理事長）が令和7年（第19回）「みどりの学術賞」を「景観生態学的研究を基盤とした都市における自然再生」に関する功績により、受賞しました。

「みどりの学術賞」は、「みどり」についての国民の造詣を深めるために、国内において植物、森林、緑地、造園、自然保護等に係る研究、技術の開発その他「みどり」に関する学術上の顕著な功績のあった個人に内閣総理大臣が授与するものです。

森本名誉教授は、都市の自然を再生し、人と生物に快適な環境を形成する視点から、京都において都市緑地の規模・分布と生物の分布の関係を分析し、景観構造が生物種に与える影響を明らかにしました。また、都市に形成された緑地を長期間にわたりモニタリングし、都市内に再生された緑地の管理手法を提言したほか、都市型洪水の緩和と生物の生息環境の改善のため降雨を地中に浸透させる「雨庭」の整備を提案し、実現に尽力しました。さらに、日本景観生態学会長を務めるほか、日本・韓国・台湾の複数の自然再生関連学会の連合体「Landscape and Ecological Engineering 国際コンソーシアム (ICLEE)」を設立し会長を務めるとともに、名古屋での生物多様性条約締約国会議時に開催された「都市と生物多様性会議」の共同議長を務めるなど、学術推進に尽力しました。これらの成果により、都市における景観生態学の学術研究とともに造園技術の社会実装に大きく貢献したことが評価されました。



【関連リンク】

新着情報 令和7年3月7日：みどりの学術賞-内閣府

<https://www.cao.go.jp/midorisho/houdo/houdo250307.html>

令和7年（第19回）「みどりの学術賞」受賞者が決定しました：文部科学省

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01489.html

令和7年（第19回）「みどりの学術賞」受賞者が決定：林野庁

https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/sanson_ryokka/250307.html

報道発表資料：令和7年（第19回）「みどりの学術賞」受賞者決定について-国土交通省

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi10_hh_000521.html

令和7年（第19回）「みどりの学術賞」受賞者の決定について | 報道発表資料 | 環境省

https://www.env.go.jp/press/press_04556.html

（大学院地球環境学堂、大学院農学研究科）

[目次に戻る ↗](#)

栄
誉

ますだれいじ

益田玲爾 フィールド科学教育研究センター教授が、2025年度日本農学賞および読売農学賞を受賞

日本農学賞は、一般社団法人日本農学会の事業として授与される賞で、その前身である「農学賞」は1925年に始まり、広義の農学分野の研究者間における最高の荣誉として今日まで続いています。読売農学賞は、日本農学会の推薦を受け、日本農学賞の受賞者に対し読売新聞社から授与されるもので、益田教授は「水圏生物の行動の個体発生と群集の環境応答に関する研究」の業績を評価されての両賞の受賞となりました。

4月の受賞者講演会では、フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所で行ってきた海水魚の飼育実験の成果や、舞鶴湾で20年以上にわたり継続している潜水調査から読み取れる温暖化の影響と対応策等について発表しました。

【関連リンク】

日本農学賞（2025年度日本農学賞／読売農学賞受賞者）

https://www.ajass.jp/30_10.html

日本農学大会（第96回（2025年度）日本農学大会）

https://www.ajass.jp/40_10.html



（フィールド科学教育研究センター）

[目次に戻る ↗](#)

訃報

このたび、吉田郷弘 名誉教授、東 邦夫 名誉教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

以下に各氏の略歴、業績などを紹介します。

吉田 郷弘 名誉教授

吉田郷弘先生は、令和7年2月12日逝去されました。享年88。

先生は、昭和34年京都大学工学部燃料化学科を卒業、同36年同大学院工学研究科修士課程を修了、同年同博士課程に進学し、同41年京都大学工学博士の学位を授与されました。昭和37年10月京都大学工学部助手に採用され、助教授を経て、同58年教授に就任、石油化学科触媒化学講座を担当されました。平成12年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられました。この間、平成8年から同10年まで京都大学評議員、京都大学工学部・環境保全センター技術部長、また、平成9年から同11年まで京都大学附属図書館商議員、平成11年4月から同12年3月まで京都大学環境保全センター長を務め、大学の管理運営に貢献されました。



先生は、物理化学、中でも触媒化学に関する研究において優れた研究業績を残され、その発展に寄与されるとともに、X線吸収分光の分野において多大の貢献をされました。これらの研究成果は、約180編の学術論文にまとめられ、国内外で高く評価されています。主な著書に『Electronic Processes in Catalysis』、『物理化学実験の手引き』等があります。

また、触媒学会、国際触媒会議などにおいて、会長、評議員、組織委員長等の要職を歴任されました。これら一連の教育研究活動、学界活動により、平成2年3月には触媒学会賞を受賞されました。このように吉田先生は、触媒化学の専門分野において、^{しがく}斯学の進歩に大きく貢献され、それらの功績は実に大きく顕著なものがあります。

(大学院工学研究科)

[目次に戻る ↗](#)

訃報

東 邦夫 名誉教授

東 邦夫先生は、令和7年3月9日逝去されました。享年86。

先生は、昭和36年京都大学工学部化学機械学科を卒業、昭和38年同大学院工学研究科修士課程原子核工学専攻を、昭和42年同大学院工学研究科博士課程を修了し、昭和42年京都大学工学博士の学位を授与されました。昭和41年4月同大学工学部助手に採用され、助教授を経て、昭和61年教授に就任、同大学工学部原子核工学科原子炉材料学講座を担当されました。平成13年4月国立舞鶴工業高等専門学校長に就任し、京都大学大学院工学研究科教授を併任し、平成13年10月に京都大学名誉教授の称号を受けられました。この間、平成8年4月から原子エネルギー研究所長、平成8年5月の同研究所の改組、改称以降はエネルギー理工学研究所長を平成10年3月まで併任され、平成8年4月から平成10年3月まで同大学評議員を務め、大学の管理運営に貢献されました。

先生は原子力化学工学の分野では、先ず表面拡散の理論的な研究で頭角を現されました。次いで気体拡散法によるウラン濃縮を独自に研究開発され、「ウラン濃縮」を著し、わが国の研究機関において直接研究指導されました。また、放射性廃棄物の地層処分の指導的先駆者として基礎研究から工学的な開発、さらには行政への参画に至る広範な活躍により、地層処分実現への道を切り拓かれました。原子力材料工学の分野では水素同位体濃度の定量分析方法を確立され、原子炉材料や核融合炉材料の研究に新しい展開をもたらされました。

先生は原子力学会、エネルギー・資源学会、日本学術会議原子力研究連絡委員会などにおいて、理事、評議員、幹事等の要職を歴任されました。これら一連の教育研究活動、学界活動により、平成6年10月科学技術庁長官賞を受賞されました。さらに、平成15年4月に原子力安全委員会委員に就任し、平成18年4月から平成21年4月まで同委員会委員長代理を務め、原子力の安全性向上に尽力され、平成21年5月に瑞宝中綬章を受章されました。このように東先生は、原子力化学および原子力材料工学の分野において、斯学の進歩に大きく貢献されました。

(大学院工学研究科)

[目次に戻る ↗](#)

